3.香川県海外移住者家族会の事業

1964年（昭和39年）3 月、香川県海外移住者家族会が設立された。同会は、会員相互の親睦ならびに海外事情の把握に努め、移住者の援護を積極的に実施し、海外移住の推進を図った。
毎年、高松市の讃岐会館で総会を開き事業計画を練ったか、主な事業としては、留守家族会の開催、海外移住推進諸行事の開催、移住者に対する援護などがあった。
留守家族会は、県出身の移住者が訪日の機会に家族会を開き、現地事情の把握と会員相互の親睦連携を図り、一時帰国者を講師に高校拓殖クラブや出身市町などで座談会を開催し、海外移住に対する認識と理解を深めるよう努めた。訪日団の歓迎や現地事情の報告会も重要な事業となっていた。
海外移住推進行事は、県、香川県移住協会、国際協力事業団高松支部など関係機関と密に連携しながら、海外移住展や講演会、映画会などを開催し、海外知識の普及に努めた。1977年（昭和52年）の総会記録をみると、笠松俊夫会長、藤井政一・佐藤一美両副会長を中心に、高校生海外発展弁論大会（於、飯山高校）、海外移住展示会（於、農業試験場、高松南高校、石田高校、笠田高校）、南米視察調査報告（於、石田高校ほか）、一般海外知識普及（於、高松市ほか）、海外現地農業事情研究会に協力（於、高松市）を行っている。

1961年（昭和36年）9月17～19日農業試験場にて開催された
海外移住展

海外移住展での掲示

移住者に対する協力としては、現地県人会と連絡を密にしながら、既移住者に対して郷土の近況、留守家族の状況を現地に知らせるなど慰問激励に努め、新移住者にはできる限りの援護を行った。また、独立資金が必要な単独青年の独立に際し、香川県農業拓殖基金協会と連携し、農協資金の活用を図るよう指導した。さらに、花嫁移住者の送出も積極的に推進した。具体的には、訪日団や一時帰国者の歓迎など既移住者への援護をはじめ、移住者の選出や壮行会、県広報誌「月間香川」の発送のほかに、留守家族その他へ「移住者だより」を配付した。
1978年（昭和53年）8 月22日に讃岐会館で行われた総会では、ブラジル香川県人会館の設立についての議案が提出されている。議案には、
「ブラジル香川県人の親睦を深め、相互の発展と母県との一層の交流を図り、県人会の存在意義を高め、香川県民性の特質を伝承し、近代的な国際人として、移住国に役立つ若い世代の育成に貢献できる活動の場として、ブラジル香川県人会館の設立が要望されておる。今年、ブラジル移住70年祭慶祝使節団として訪伯した、香川県副知事、香川県議会議長に対し、ブラジル香川県人会長より県人会館設立の要請があった。これに対し、香川県副知事、香川県議会議長は了解、同意し、香川県農林部長により設立準備を進めております」。とある。
ブラジル香川県人会館の設立計画は、サンパウロ市の都心より6 km、地下鉄駅より400mの極めて便利なところに、925?（280 坪）の土地に、寝室4 部屋のある前1 棟、120?平屋の裏1 棟となっている。取得に要する経費は4,000 万円で、香川県、市町、その他に対して2,500 万円の助成を希望している。
1979年（昭和54年）の総会では、役員改選が行われ、国分寺町新居の藤井政一が会長に、三木町の滝川碧が副会長に選出された。同年12月21日から55年1 月31日までの41日間、会長の藤井政一、会員の福本末吉、福本笑子、藤本コナミの南米慰問団が肉親の慰問や現地での交流を通じ、移住に対する認識と理解を深めた。また、各留守家族に移住先宛名を書いた航空便封筒を送り「手紙を出しましょう運動」も展開した。
その後も、香川県海外移住者家族会では、会員の親睦交流を深めながら、南米慰問団の派遣、一時帰国者の歓迎、花嫁移住の啓発、海外技術研修員の受け入れなど積極的に事業を展開するほか、雑誌や報道写真集などを送付して、母県で留守を守る家族と移住先国で活躍する人々をつなぐ近況報告にも努めている。

Copyright © Kagawa Prefecture All Rights Reserved.